

第67回 独立行政法人都市再生機構 契約監視委員会  
審議概要

開 催 日	令和8年3月12日（木）
開 催 場 所	独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部会議室 （対面及びWEB）
出 席 委 員	長沢 美智子（弁護士（東京丸の内法律事務所）） 高木 勇三（公認会計士） 長村 彌角（公認会計士（有限責任監査法人トーマツ）） 鈴木 豊（学校法人青山学院常任監事・青山学院大学名誉教授） 井出 多加子（成蹊大学経済学部現代経済学科教授） 市毛 由美子（弁護士（のぞみ総合法律事務所）） 谷口 実（都市再生機構監事） 上澤 秀仁（都市再生機構監事） 横溝 有美子（都市再生機構監事）
審 議 事 項 等	審議事項 （1）令和7年度3四半期における競争性のない随意契約及び1者応 札・1者応募となった契約について  （2）「令和7年度調達等合理化計画」第3四半期時点の自己評価案に ついて
審 議 概 要 等	別紙のとおり なお、意見・質問欄には各委員からの発言要旨を記載しており、委員会としての 意見等を記載しているものではない。

(別紙)

意見・質問	説明・回答
審議事項1 令和7年度第3四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約について	
○建設コンサルタント業務の契約件数が減少しているが、どのような要因か。	・賃貸住宅の修繕周期や都市再生の事業の状況によって発注の有無が決まることから、契約件数が減少したものと考え。
【委員会意見】 特段の意見はなかった。	

審議事項2 「令和7年度調達等合理化計画」第3四半期時点の自己評価案について	
○調達事務フローを体系的に可視化する機能等を備えた調達ワークフローシステムを開発、稼働開始し、調達業務の効率化が図られたということで、A評価をしてよいと思う。この取り組みは過年度から開始しており、導入開始まで長期間取り組んできたことが伝わるようにするのも一つのアイデアではないかと思う。	・表現の記載ぶりについて検討していきたい。
アンケートでは、調達ワークフローシステムについて操作しやすいとの回答が7割、業務を円滑に進められているとの回答が9割となっており、2割の差は何か。	確認する。
計画では「手続きミスの防止を図る」こととしているが、自己評価では、「内部統制の強化が図られた」としており、計画に沿って「手続きミスの防止を図り」、内部統制の強化にもつながったという記載にした方がよい。	記載を検討したい。
調達ワークフローシステムでは、「画面に表示される手続きの順序に従って操作を進めることにより、個別判断や確認を要することなく、適切かつ円滑な業務を実現」しているとのことであるが、契約の内容など個別に違いはあると思われるの	例えば、工事にしてもさまざまな工事があるので、その種類分の選択項目を用意し、該当する内容を選択することで、内容に応じたプロセスが表示され、迷わずに業務を進められるようにしている。

意見・質問	説明・回答
<p>で、表現が気になった。</p> <p>○数値目標の設定は見積もりが難しい部分もあるが、客観的な評価やより高い評価を目指しやすいかもしれないので、設定可能な項目は今後の計画策定の際に工夫できないか検討してみるとよい。</p> <p>○目下の原油問題もあり、今後、ますます資源高騰、物価上昇が見込まれる中で、一者応札回避の対策として、価格の調整条項を入れることも検討されたい。</p> <p>○事業者への負荷軽減施策について建設業界紙への広報活動を進め、認知度及び好感度の向上を図る活動の実施も踏まえてA評価としているが、好感度の計測がない中でA評価としている理由についてうかがいたい。</p> <p>これまでのいろいろな取り組みにプラスアルファでA評価となっていることが伝わるような記載とするとよい。</p> <p>○今後ますます、生成AIが発展していくことも見据え、サイバーセキュリティ対応についても、URにおいて、いろいろな研究を重ねられたい。</p>	<p>・計画策定にあたり、こういった記載がよいかを検討していきたい。</p> <p>・見積り活用方式を積極的に活用するなど、検討していきたい。</p> <p>・事業者ヒアリングを通じて施策に反映してきたことに加えて、プラスアルファの取組として広報活動を行ってきた。これらの取組がつながり、上昇傾向であった不調・不落率に改善傾向がみられたものと考えており、A評価とさせていただいている。</p> <p>どのような記載が伝わりやすいか検討していきたい。</p> <p>・関係部署と連携のうえ、検討していきたい。</p>
<p><b>【委員会意見】</b> 取組をさらにわかりやすく伝える表現など、より記載の充実が必要である。</p>	